

人民解放軍空海陸元副司令官との面談会食報告

9月末、中国国際友好連絡会アジア部部长孫永剛氏より「元空軍司令官が団長を務める訪日団と10月27日(木)会食懇談したい」旨連絡が入り、快諾しました。訪日団の名簿(下記陸海空元副司令官、国防大学、軍事科学院、友連会含め11名)を見てビックリしました。

東北老航空学校設立70周年、当会初代会長林弥一郎17回忌の節目の年に、空軍元副司令官等関係者と懇談する事は、歴史の偶然ですが不思議なご縁であり、第二世代にとって新たな絆の再構築や友好活動の幅と質を高める絶好の機会と捉えました。

当日は、野田副会長の故郷である飛騨牛のスキヤキで会食し、胸襟を開き懇談する為友連会提案により、お互いノーネクタイで臨むことになり非常に和やかな雰囲気で行われました。

訪日団は、危機管理強化で衝突回避の実現に向け日中連絡メカニズム構築の政治折衝という重大な任務を持ち、日中実務者協議の為1週間前から来日、帰国前日に当会と交流を深める趣旨で懇談食事会となりました。

元空軍副司令官陳小工団長は、林弥一郎氏他老戦士への敬意感謝、日中間では戦火を交えてはならない事及び民間交流活動の重要性を述べると共に自らの家族の事も話されました。父親陳楚氏は、1972年日中国交回復正常化後周恩来総理から指名を受け初代駐日本全権大使として着任(1973~76年)。指名を受け非常に悩んでいた事や祖父母が日本兵に殺された事など話されました。他の将軍から「この様な事を日本人に話したのは初めて」との事。

軍関係者に「翼よよみがえれ」(花伝社版)を贈呈し、関西日中からの提案として、17年は国交正常化45年、18年は平和条約40年、19年は中国建国70年となり、この時期に日中民間記念事業として「映画化を行い、新たな時代に日本と中国が両翼となり平和の飛行機をアジアに飛ばしたい」旨を伝え協力要請を行いました。

将軍たちは、日中共同事業としての映画化には意義があると理解して頂き検討するとのコメントを頂きました。また、友好連会辛旗副会長より「必ず本日の提案は陳元会長に伝える」との約束を得ました。また、ビックリしたのは国防大学元副政治委員李殿仁氏からは、「本日の事は学生に伝える」更に「当会に対し国防大学への来訪要請」もありました。

初めて軍関係者との面談は、和やかに進み絆を深めたと思います。時間も迫り記念撮影後、別れる時胸に着けていたバッジ(両国旗の間に羽ばたく鳩)を陳小工元空軍司令官の襟にプレゼントしました。

NHK大河ドラマ真田丸での戦国武将石田三成の旗印「大一大万大吉」を胸に、戦略を練り日中友好活動の新たな高台を目指し活動していく所存です。映画化は無謀な挑戦ですが、本年総会での決定事項「メディア活動や文化事業の支援等活発化」の一環として地道に色々な方や友好団体に働き掛け、時間は掛かるとは思いますが是非実現したい。

食事会出席者：中国下記含め11名(敬称略)、関西日中平和友好会9名

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1 団長：空軍元副司令陳小工 | 2 元済南軍区副司令官劉倫賢 |
| 3 軍事科学院元副院長徐根初 | 4 国防大学元副政治委員李殿仁 |
| 5 海軍元副司令官徐洪猛 | 6 中国国際友好連絡会副会長辛旗 |
| 7 中国国際友好連絡会副秘書長周新政 | 8 中国国際友好連絡会アジア部部长孫永剛 |

